

## チュニジアってどんな国?(1)



散策中に昼食を誘われ、ちょっとだけ合流しているのはチュニジアの家庭料理アッジャ。奥の2人が日本人、奥の4人がチュニジア人

・源実恵  
(鳥取大学大学院農学研究科学生)

(水曜日に掲載)

# 砂と暮らし 砂に学ぶ

ITP  
だより

チュニジア共和国はアフリカ大陸の最北端に位置し、地中海に面して

いる。北部には緑の生い茂る山岳、南部にはサハラ砂漠が広がる。日本人にとってはマイナーなこの国に、鳥取大学から砂漠化問題を勉強するために来ている。

チュニジアは発展途上国ではあるが、衣食住の水準がだいぶ満たされていて、豊かな国だなぁ、というのが第一印象。人々も親切で陽気だ。

こちらへ来てすぐ日本人の仲間と周辺を散策。建築中の建物の前を通り過ぎようとしていたら、そこで働く兄ちゃんたちが私たちをみつめて笑顔で「おいで、おいで」と屋上に連れて行く。景色を見渡しながら、アラビア語がほとんど分からない私たちに「あっちが地中海だ」などと説明してくれた。

屋上から下りて行くと、大工さんたちが輪になってくつろいでいた。「一緒にお昼を食べて」と言ってお食事を用意して分けてくれる。最初に警戒していたのが申し訳なく思えた。

ITP (若手研究者インターナショナル・トレーニング・プログラム) 国際的に活躍できる若手研究者を育成することを目指し、日本学術振興会が支援する事業。